

日本共産党が、くりかえし要望してきた 「住宅リフォーム助成制度」が

「わくわく建設券」事業

として始まります。

景気対策の特効薬

長期のデフレ不況のなかで「仕事がない」という切実な声にこたえて、日本共産党議員団は、「住宅リフォーム助成制度は『景気対策の特効薬』として全国に広がっている。別府市でも早く実施を」とくりかえし求めてきました。

2年前の議会で約束

二年前の市長選・市議選前の議会で、日本共産党の質問に対して、浜田市長が「実施に向けて前向きに検討する」と答弁して以来、その実現が待ち望まれてきました。

さらに改善が必要

ようやく4月から「BEPPO わくわく建設券」事業として始まることになりましたが、内容には問題点もありますので、中小業者のみならず、さらに改善を求めていきます。

20万円を上限に 10%の補助があります

自宅の新築・増改築などを、商工会議所に登録した市内業者に発注すれば、10%の助成が受けられます。

助成の方法は、施主が1枚5万5千円の「建設券」を5万円で購入（1世帯40枚が限度）、「券」で支払い、業者が「換金」という仕組みです。

《改善が必要な問題点》

- ◇補助を受ける施主は「市税滞納者」でもいいのに、仕事をする業者は「滞納がないこと」。なぜか。
- ◇仕事した業者が、1%の手数料を商工会議所に支払う？（会議所は1,100万円を受け取る）なぜか。
- ◇自宅の工事には補助するが、民間アパートの工事は補助しない。なぜか。
- ◇「市内業者に仕事を」が目的なのに、市内に営業所があれば、大手住宅メーカーにも開放？なぜか。

げんきニュース

日本共産党 平野文活 えんど久子

2013年

2月17日

NO. 543